

いの流水俳壇

松尾 満津於選

「当季雑詠」

回転ドア押しして炎暑を裏返す

間 浩太

(評)炎暑という時刻は昼、炎天の景であろう。汗の中に一瞬の忘我をとらえた句。真夏の燃えるような暑さの中で部屋の中は噎せ返るような暑さ、ドアを明けて外の風を内に入れ、部屋の中の空気を替える。炎熱の修羅場に一時的な気持の安らぎが兆す。炎暑を裏返すという表現は、如何にも作者らしい表現で、ユニークである。

夾竹桃ことしも真紅原爆忌

友草 水月

(評)夾竹桃は常緑の灌木。葉は竹の葉に似て厚く、毎夏に樹一ぱいの花をつける。真紅の花は、世界中で唯一原爆の悲惨さを体験した日本人には忘却のできない怖の遺産事。花を観て、天を眺め、大きく嘆息をつく、人間生活と自然の推移、考えることは随分多い。

雨上がり墓石を磨く盆支度

川村 博子

(評)何事も定期的な行事は早目にしておくという。里言葉に「盆の用意は正月か

ら」ということがある。年中で決まっている仕事は、早い目にする。盆の前に降る雨の日は墓石を磨いておけば墓洗いに水を運ばなくて済む。この句はそんな地方の仕来りを、そのとおりにやっている様子を知ることができる句である。

迎え火の明かりにうつる顔と顔

筒井 正子

(評)陰曆七月十三日の夜、「うらぼん」最初の日に祖先や先祖一族の御霊、死者の精霊を迎えるために、門前や近くの川のほとりで焚く火の事を迎え火ということが、ようやく陽も落ちて周囲が暗くなり始める頃、門前で焚く火の明かり。日中の暑さから解放されて涼しくなった門前。夫に先立たれた妻、妻と別れた夫。夫婦七世のちぎりとこの喩えがあるが、夫婦の絆は格別。亡きひとの魂を迎え再び冥土へかえす。盆の三ヶ日誰はばかりのことなく、生前を胸に収めて燈明を照らす。この句の裏には、生き残った者の世故の繁忙がある。それを断って真情のままで在り得る時、かけがえのない作品となるはず。

箸とめてカナカナへ耳澄ます

竹崎たかひろ

(評)鯛が鳴いている。作者は夕食中、そんなに近くではないかすかな声に、耳を澄ます。幽かな声、動かす箸の手を止めて…。

百枚の棚田蛙の声揃う

岡本とも子

髪染めて八十路句はす夕涼み

片岡 包女

老いを知ることの戸惑い秋暑し

竹崎 光子

ファイナレは光の雫大花火

刈谷 志津

よさこいの夏は地を裂く天を裂く

大川 節弥

畳目のくつきり類に昼寝の子

津田 久美

空蹕や命を繋ぐ移植論

井上 郁子

幼子が美人となりて夏祭り

森岡 照月

となりの子にメタルかけやる踊の娘

弘瀬うき子

夕顔の咲きつぐ風のいますこし

伊藤 萩甫

甲子園選抜球児汗光る

野本 則昌

七夕や親と子供と先生と

松尾満津於

次 題 「当季雑詠」
締め切り 毎月第2月曜日

投句先

吾北教育事務所 上八川甲2010

☎ 867-2133

催し物

第21回 ほのほの王国 もみじまつり開催

ほのほの王国もみじまつりは、子どもからお年寄りまで楽しめる催しで、吾北地区最大のイベントとなっております。

美しい花が咲く中、吾北地区の味自慢の店も多く出店します。また、伝統芸能など多くの方の出演がありますので、是非お越しください。

日時 11月14日(日)

10時～15時30分

*荒天の場合は、吾北中央公民館でイベントを行います。

場所 グリーン・パークほのほのお祭り広場(清水程野)

内容 吾北清流太鼓・もち投げ・打木太刀踊り・豊年踊り・ステイールパンの演奏・GSバンドの演奏など。

その他

ほのほの市・わんぱく広場・ヘリコプター遊覧飛行(10時～15時30分)

*天候により中止になる場合があります。

問い合わせ

ほのほの王国もみじまつり実行委員会
(吾北総合支所産業課内)

☎ 867-2313

※ご注意：ペットの持ち込みはご遠慮ください。